

岡崎市平和祈念式 式辞

本日は、戦没者・戦災死者のご遺族の皆様、並びにご来賓の皆様におかれましては、ご多用の中、「岡崎市平和祈念式」にご参列を賜り、心から御礼申し上げます。式の挙行にあたり、式辞を申し述べます。

終戦から８０年以上の歳月が過ぎ、戦争を直接知る世代が少なくなる今日ですが、多くの方々が戦争の犠牲となり、お亡くなりになられたことは、未来永劫忘れてはならない、深い悲しみの記憶であります。

ここに、日清・日露戦争から先の大戦において、祖国の安泰を願い、家族を案じつつ、戦場に散り、あるいは戦禍に倒れられた方々、そして、終戦に間近い、昭和２０年７月２０日未明の岡崎空襲による約２８０名の犠牲者を含む、本市における多くの戦没者及び戦災死者の御霊に対しまして、謹んで哀悼の誠を捧げます。

また、最愛のご家族を失われ、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、今日に至るまで長く苦しい日々を過ごして来られましたご遺族の皆様のご心痛を拝察いたしますと痛惜の念に堪えません。ここに改めて、戦没者の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご労苦に対しまして、心から敬意を表します。

戦後、本市は、平和を願う市民の英知と弛みない努力によって、荒廃の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越え、目覚ましい復興と発展を遂げてまいりました。今月１日には、無事に市制施行１１０周年を迎えることができましたことを心より感謝申し上げます。本市のこうした歩みは、戦争によって心ならずも命を落とされた方々の犠牲の上に成り立っていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

しかしながら悲しいことに、世界では今なお、武力による紛争が後を絶ちません。改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風

化させることなく次の世代に継承していくこと、そして、次の世代を担う子どもたちが夢と希望を持って、未来を切り開いていける社会を実現することが、私たちの使命であると考えます。

こうした社会の実現のため、子育て支援や教育の充実などの基本施策を充実させることによりまして、岡崎で生まれ育った子どもたちが、自らのふるさとに対して、大きな愛情と誇りを持てる、住んで快適、楽しいまち、そんな「夢ある新しい岡崎」の実現に、全力で取り組んでまいり所存であります。

最後になりますが、戦没者及び戦災死者の御霊が安らかでありますこと、そして、ご遺族並びにご参列の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和8年7月17日 岡崎市長 内 田 康 宏